

## 研究の背景・目的

十勝の民有林では人工林の7割以上がカラマツであり、十勝の林業にとって最も大切な樹種です。主伐と更新の時期を迎え、私たちが将来の十勝の林業の担い手としての資質を高めるためにはカラマツ林について深く知る必要があります。私たちが一年間、カラマツをテーマに実施した実習や見学について成果を発表します

## 研究の内容・成果

## 1 研究の内容（調査項目）

## 1) 苗木の育成

- ① 裸苗の育成 1年次春に播種、2年次の6月に床がえを行いました。
- ② コンテナ苗の育成 播種床で育成した2年生の苗と、セルトレイに播種した当年生の苗を、夏にコンテナへ移植しました。

## 2) カラマツ林の成長過程を調べる

- ① 本校の70年生林分と、帯広市の所有する防風保安林（3年生、5年生、10年生、27年生、50年生）の見学と林分調査を実施しました。
- ② 樹幹解析により、カラマツの成長経過を測定しました。

## 3) 造林

- ① 臨時休校のため、裸苗の造林は先生方が実施しました。
- ② 5月下旬にコンテナ苗の造林林を行いました。
- ③ 前年度植栽の造林木の生育調査を行いました。

## 2 研究の成果（結果と考察）

## 1) 苗木の育成について

- ① 裸苗及びセルトレイで播種したコンテナ苗は現在育苗中です。
- ② 2年生の苗から育苗したコンテナ苗は翌春に造林に用いることができました。

## 2) カラマツ林の成長経過について

- ① 各林齢のカラマツの本数密度、直径、樹高、材積を求めることができました。
- ② 林分の平均成長量は10年生林分で最も高く、林齢に伴って減少していました。
- ③ 単木の成長量は70年生段階ではまだ増大していました。

## 3) 造林木の生育状況

多くがネズミの食害を受けてたものの、残存木の生育は順調でした。

## 今後の展開

私たちのクラスの就職希望者のうち、8割は以上が林業・木材産業に関わる進路を希望しています。コロナウィルス対応の臨時休校や対外活動の制約でできなかったこともたくさんあった中で、学校林と地域にある森林から学べたことは、とても大切な経験でした。今後も、見出した課題を解決しつつ、学習に取り組んでいきたいです。